

平成31年3月9日

平成30年度 P T A第7回運営委員会

# あしたのあさひ



～P Tアクションと校長室をつなぐ～

県立旭高等学校長 古谷康司

3月1日に44期生が卒業しました。「巣立ち」という思いで胸がいっぱいになりました。

本校では、卒業してから10年後の28歳の時に、社会で活躍し、小さいグループでもいいからリーダーになって欲しいという、先を見据えた思いから「アウトプットする力」の育成に取り組んでいます。旭高校を巣立った皆さんの、さらなる成長を祈っています。

P T Aについては、「親子で輝く旭高校」を目指し、新しい企画を立ち上げるなど、活動の活性化にまい進してこられた役員の方々をはじめ、ご協力をいただいた多くの保護者の皆様に、深く感謝申し上げます。

現在、生徒には、日々の生活を通して「生きる力」をつけさせたいと思い、保護者の皆様と連携・協働した取組を企画していただけるようお願いしています。家庭学習時間がないこと、遅刻が増えたことなど、学校だけでは、解決ができなかった課題をお伝えし、家庭と学校がどのように協力すべきなのかについて考える場をつくります。連携・協働の成果として、私たち大人の行動を見た生徒自身が、自分が何をすべきなのかに気付き、自ら考えて行動することを期待しています。そのためには、学校行事やP T Aのイベントはもちろん、より多くの保護者の方が学校に来校し、お子様が活躍する姿を見ていただける機会を増やすことができるように、これからも努めてまいります。

旭高校の校長として4年間、4時半起きの生活もあと少しで終わりです。最後になっても、旭高校を、そして生徒を伸ばしたいと、アイデアが出てきます。たくさんの種をまき、たくさんの芽が出てきたところです。中には小さな花も咲いています。在校生の45期、46期生がしっかり成長し、旭高校での学びについて、後輩に伝えてくれることを期待しています。

改めて、お世話になった皆様にお礼申し上げます。そして、旭高校が輝く50周年を迎えられることを祈っています。本当に、ありがとうございました。